



在宅医療・介護連携を「輪」でつなぐ・・・

WAO!通信

【発行元】

泉佐野泉南医師会 地域連携室
〒598-0063 泉佐野市湊1-1-30
☎072-464-6123 FAX 072-464-6133
E-mail renkei@sano.osaka.med.or.jp
URL http://www.sano.osaka.med.or.jp

わ・リレーコラム

第50走者 

医師

松若 良介 先生

泉佐野泉南医師会
副会長

松若医院

【阪南市】

医師会地域連携室担当理事の松若です。この稿が皆様に届くころには第6波のコロナ禍が鎮静化していることを期待しています。

長引くコロナ禍→世の中全体の引きこもり→高齢者ではフレイル（虚弱）に陥る人の増加（いわゆるコロナフレイル）という悪循環はまだ続いています。高齢者（特に後期高齢者）はコロナ禍以前の元気だった自分を全く忘れていないのではないかと感じさせられることも多々あります。いまこそ医療・介護の多職種が一丸となって高齢者の活動性を取り戻すことが求められています。フレイル→要介護への悪化を防止するためにも、高齢者が動く（運動する）、しゃべる（≡脳を使う）をあらゆる場面でふやすことが重要だと思います。医療・介護の多職種の皆様が引きこもりがちな高齢者の背中、お尻を押して、しよぼくれた方を→ちょっと元気な方に、ちょっと元気な方を→ごっつい元気な方になってもらえるようにこれまで以上にパワーアップして日常の活動に取り組んでいただくことを切にお願いします。

医師会地域連携室はこれからも行政、地域包括支援センターとタッグを組んで皆様の活動のお役にたてるように頑張りますので、ご指導、ご支援の程よろしく申し上げます。

活動報告

令和4年1月22日ACP講演会を開催しました

令和4年2月19日 第7回認知症サミットを開催しました

講師に在宅ケア移行支援研究所代表宇都宮宏子さんをお招きし「入退院からACPへのアプローチを考えるシンポジウム」を開催しました。病気と向き合ってから人生の最期まで、望む生き方ができるための意思決定支援について、多職種で切れ間なくつないでいくことを学びました。

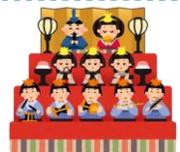
徘徊を繰り返し保護される認知症高齢者への本人主体の支援とは、初期中チームが事故等の危険も含め、寄り添いながら当事者の希望を実現していく事例から学び、本人中心・本人主体とは、何か考える事例でした。今後も多職種と協働しながら、認知症サミットを進めていきますので、よろしくお願いします。

どちらもオンライン開催

今月のWAO!さん

泉佐野泉南医師会地域連携室

前田 美千代 さん



今年の1月から地域連携室で勤務させていただいています。

保健師として主に母子保健や健康増進にかかわる仕事をしてきました。

在宅医療や介護保険に携わる仕事は初めてに近く、歳はいますがまだまだ新人です。早2か月がたち、多くのかたがたと出会い、沢山の会議に出席させていただきました。

こんなに多くの多職種のかたがたが、高齢者に寄り添い、生活を支えるために努力をされているのだと知りました。

不慣れな私ですが、それでも出会ったすべてのかたがた、すべての会議を大切に思い精進していきたいと思えます。皆さんよろしくお願いします。